

第二部 災害碑・竣工碑・周年碑



10

## 長野県

◎建立者／不明(再建・大町建設事務所長 中村雅雄)  
◎建立年／寛永十八年四月(昭和二十五年七月再建)

## 猫塚

信濃川の上流犀川のある鹿島川は古代、中世から氾濫を繰り返し、地域住民は大きな被害を受けてきた。洪水は、扇状地形の上流部に位置する猫鼻(ねこはな)地区の堤防を決壊して、下流域の特に借馬(かるま)地区の集落に大きな被害を与えていた。猫鼻地区には、平、野口、大町地区の主要な灌漑用水の取水口が設けられていた。農業を中心であった当時、取水口は信仰対象としての側面もあつたので、江戸時代は松本藩の指示で、野口地区の行者に災害が起らぬないように祈願してもらっていた。猫鼻の名は矢沢の押出しの形状が猫の鼻に似ていることに由来する。

また、取水口付近に人柱の代わりに猫を何体も埋めて堤防がわりにして、氾濫を防止したと伝えられており、これが『猫塚』の由来である。猫塚は、寛永十八年(一六四一年)に建立され、昭和二十五年に再建された。江戸時代の住民が命と暮らしを守ろうと祈願した心が、そして、犠牲になつたといわれている多くの猫たちへの供養の心が、通じてくるような塚である。



碑文

表面

寛永十八年四月 建立  
昭和二十五年七月 再建

猫塚

大町建設事務所長

中村雅雄

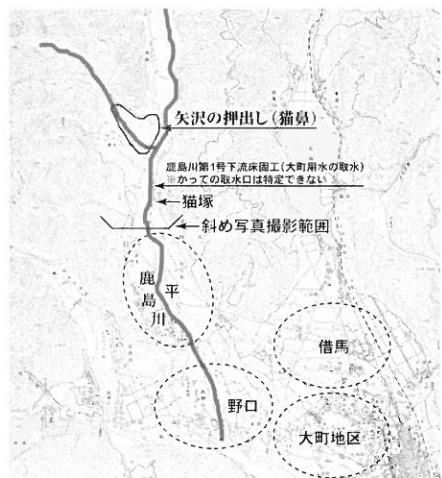
裏面／河よけの昔かたりや猫の塚  
側面

背面／不明

作者

西原録四郎

施主



▶ 交通案内

◎JR大糸線信濃大町駅下車 8km(定期バスなし)

爺ヶ岳スキー場近く

▶ 所在地

長野県大町市平

▶ 水系名及び渓流名

信濃川水系鹿島川

▶問い合わせ先

建設省松本砂防工事事務所 調査課 電話0263-33-1115

長野県砂防課 電話0262-32-0111

長野県大町建設事務所 電話0261-22-5111



# 稻荷川水難供養塔

稻荷川は鬼怒川の右支川大谷川の左小支川であり、標高二千四百六十四メートルの女峰山から、日光市街地に向けて流れる急流河川である。

寛文二年（一六六二年）六月十三日の寅刻（午前四時）、稻荷川の水源である七滝付近に自然にできた湖が、連日の風雨のために決壊し、一瞬のうちに大洪水となつた。洪水は稻荷町四丁のうち、一丁目を残して一丁目から下と萩垣面・鍛冶町までの民家三百余戸をまたたく間に押し流してしまつた。

翌寛文三年、溺死者を慰靈するために稻荷川水難供養塔が建てられた。碑の背面には年号と七名の名が刻まれていることから、これらの人々が建立したものと思われる。また、この災害の犠牲者の数は明らかではないが、碑の側面に多数の法名や人名が刻まれており、水難に遭つた人々の名と推定されている。

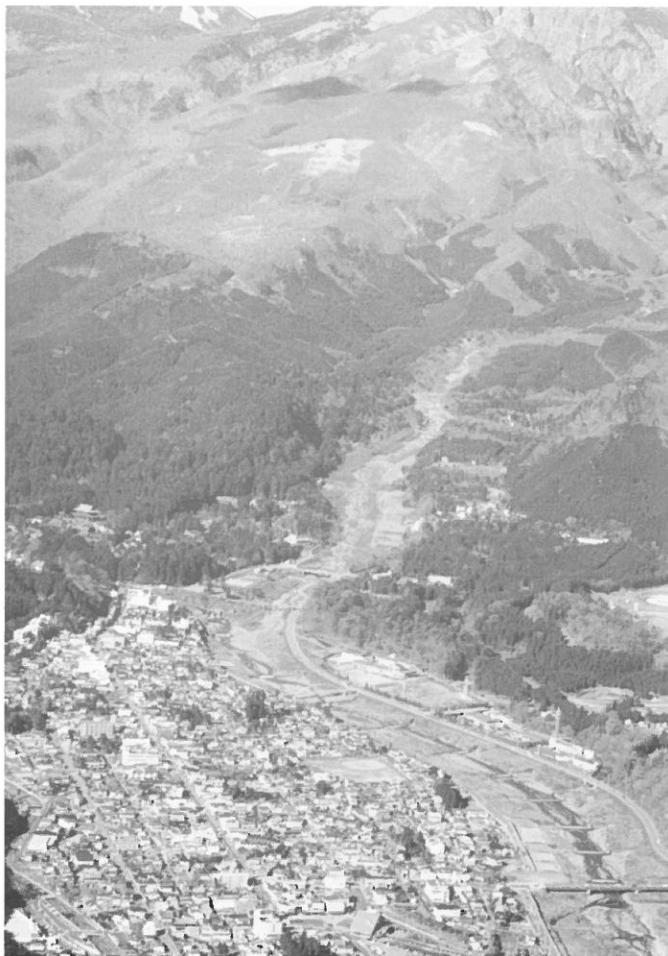


## 碑文

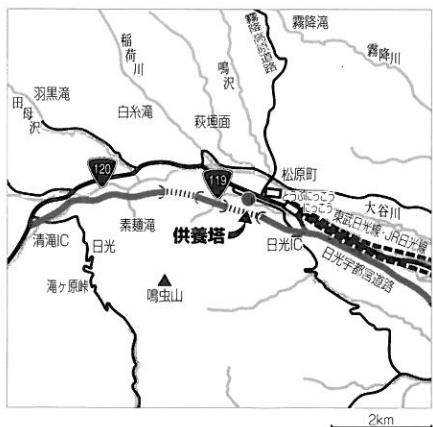
表面…南無阿弥陀仏

裏面…多数の法名・人名(水難に遭った人たちの名と思われる)

背面…寛文二年九月(水難にあつた翌年)の年号と梅原宗意以下七名の名。



日光市街地と稻荷川



### ▶ 交通案内

◎JR日光線日光駅 東武日光線東武日光駅下車 徒歩15分

◎国道119号松原町交差点より車で2分

### ▶ 所在地

栃木県日光市石屋町志度淵川地先

### ▶ 水系名及び溪流名

利根川水系鬼怒川右支川大谷川右小支志度淵川

### ▶ 問い合わせ先

建設省日光砂防工事事務所 調査課 電話0288-54-1191



# 名立崩れ受難者 慰靈碑

この石碑は、宝暦元年（寛延四年・一七五一年）、四月二十五日に起きた高田大地震で、壊滅的な被害を受けた名立の犠牲者を慰靈するものである。

名立は新潟県の西部、名立町の漁師の集落である。高田大地震では名立小泊一帯で山崩れが頻発、その一つが名立崩れで、全村九十一戸のうち八十余りが下敷きになり、死者は村人五百二十五人のうち四百二十八人に上った。三十七年後に聞いた話を橋南溪が『東西遊記』に「其時うしろの山二つにわれて、海に沈みしとぞおもわる。上名立の家は一軒も残らず、老少男女、牛馬鶏犬までも海中のみくずとなりしに……」と書いている。名立小泊の中央部にはこの時の地震塚が建てられ、毎年四月二十五日には、読経供養が行われている。

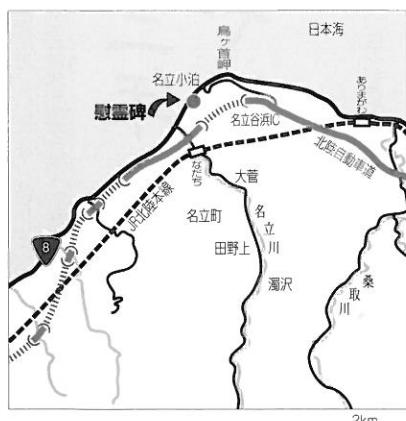


## 名立崩れ(新潟)

越後国糸魚川と直江津との間に名立という駅あり。上名立、下名立と二つに分かれ、家数も多く、家建も大いにして、此辺にて繁昌の所なり。上下ともに南に山を負いて、北海に臨みたる地なり。然るに、今年より三十七年以前に、上名立のうしろの山二つにわかれて海中に崩れ入り、一駅の人馬鷄犬ことごとく海底に没入す。其われたる山の跡、今にも草木無く、真白にして壁のごとく立てり。余も此度下名立に一宿して、所の人に其有りし事などを尋ぬるに、皆々舌をふるわしていえるは、名立の駅は海辺の事なれば、惣じて魚獵を家業とするに、其夜は風静にして天気殊によろしくありしかば、一駅の者ども夕暮れより船を催して、鰐、鯨の類を釣に出でたり。鯨の類は沖遠くて釣ることなれば、名立を離るる事八里も十里も出でて、皆々釣り居たるに、ふと地方の空を顧ねれば、名立の方角と見えて、一面に赤くなり、夥敷火事と見ゆ。皆々大いに驚き、「すわや我家の焼うせぬらん。一刻も早く帰るべし」というより、各我一と船を早めて家に帰りたるに、陸には何のかわりたることもなし。「此近きあたりに火事ありしや」と問えど、さら其事なしという。みなみなあやしみながら、まずまず目出たしなど、いつ、圍炉裏の側に茶などのみて居たしに、時刻はようよう夜半過ぐる頃なりしが、いざくともなく只一つ大なる鉄砲を打ちたるごとく音聞こえしに、其跡はいかなりしや、るものなし。其時うしろの山二つにわれて、海に沈みしどぞおもわる。上名立の家は一軒も残らず、老少男女、牛馬鷄犬までも海中のみくずとなりしに、其中に只一人、ある家の女房、木の枝にかかりながら波の上に浮かみて命たすかりぬ。ありしこと共、皆此女の物語にて、鉄砲のごとき音せしまでは覚え居しが、其跡は只夢中のごとくにて、海に沈みし事もしらざりしどぞ。誠に不思議なるは、初の火事のごとく赤くみえしこなり。それゆえに、一駅の者ども残らず帰り集まりて死失せし也。もし此事無くば、男子たる者は大かた釣りに出でたりしことなれば、活残るべきに、一つ所に集めて後、崩れたりしは、誠に因果とやうべき。あわれなること也」と語れり。余其後人に聞くに、「大地震すべき地は、遠方より見れば赤氣立のぼりて火事のごとくなるもの也」と云えり。松前の津波の時、雲中に仏神飛行し給いしなんどといふことも、此たぐいなるべしや。

此名立の駅は、古人、佐渡へ渡り給い所なりとぞ。神主竹内太夫という者の家に古き短冊を持せりといふ。其歌に、

都をばさすらへ出でて今宵しもうきに名立の月を見る哉  
是は菊亭大納言為兼卿、佐渡配流の時、此駅にてよめる和歌なりとぞ。或説に順徳院の御製とも云う。余は其短冊みざりしかば、いずれともしらず。されど、歌の体、臣下たる人の作にもやと思わる。又、名立の次に長浜といふ浜有り。「黄昏に往来の人の跡絶え道はがどらぬ越の長浜」などいえる古歌もありと聞けり。誠に此あたりは都遠く、よろず心細き土地なりき。



▶ 交通案内  
◎JR北陸本線名立駅下車 国道8号を直江津方向へ15分(駅より2km)  
▶ 所在地  
新潟県西頸城郡名立町名立小泊  
▶問い合わせ先  
新潟県砂防課 電話025-285-5511

群馬県指定史跡 天明三年浅間やけ遺跡

13 群馬県

◎建立者／嬬恋村  
◎建立年／昭和三十一年六月二十日  
◎建立者／嬬恋村鎌原觀音寺  
◎建立年／平成四年九月

# 天明三年 浅間やけ遺跡

天明三年（一七八三年）七月九日、群馬・長野両県境にある浅間山が大噴火を起こした。発生した火砕流は土石流を巻き込み熱泥流となり、時速百kmという猛烈な速さで、ふもとの鎌原村を襲った。人、馬、家、田畠、全てが一瞬にして押し流されたのであった。かろうじて助かったのは、石段を駆け上がって村の觀音堂にたどり着いた九十三名の人々であった。熱泥流は、逃げる人の足元に迫ってきたが、石段を十五段残して止まつたのである。

奇跡的に助かつた生存者九十三名は、力を合わせて押し埋められた村を再建した。村の命を救つた鎌原觀音堂は、群馬県指定史跡となるとともに、今も厄除け觀音として、あつく信奉されている。

なお、この時の熱泥流は鎌原村を壊滅させたあと利根川を流下し、大きな被害を発生させている。



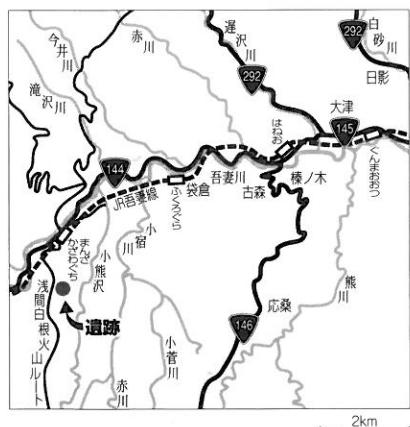
## 碑文

鎌原觀音堂

群馬県指定史跡

天明二年浅間やけ遺跡

群馬県指定史跡  
天明三年浅間やけ遺跡  
かんばらかんのん



### ▶ 交通案内

- JR吾妻線万座・鹿沢口駅下車 西武高原バス
- JRバス関東 中軽井沢・軽井沢駅前 鎌原觀音堂前下車 徒歩0分
- 国道144号笹平交差点より2km 車で約5分

### ▶ 所在地

群馬県吾妻郡嬬恋村鎌原地先

▶ 水系名及び溪流名

利根川水系吾妻川

▶問い合わせ先

建設省利根川水系砂防工事事務所 調査課 電話0279-22-4179



## 下二吹水難供養塔

享保十三年（一七二八年）、天明五年（一七八五年）、寛政二年（一七九〇年）の三回にわたって山梨県武川村の二吹地区は大水害を受けた。治水施設が整備されていない当時のことであり、そのたびに集落を分断されるなどの惨状を呈したといわれる。

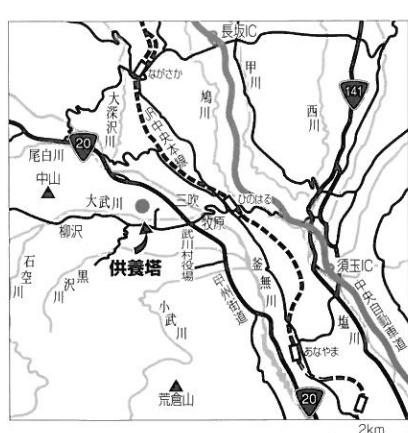
そこで村人たちは経文「大乗經」を一石に一字ずつ書きしるし、それを同村の村上地区に埋めて災難除けの祈願をしたと伝えられている。さらに三度目の災害に遭った翌年の寛政三年、これらの災害の犠牲になつた人々の冥福を祈る供養塔を建立した。それ以来武川村では、毎年八月十九日に一石塔の祭りを欠かさず行い、再び災害に見舞われないように祈願しながら供養している。



# 下三吹水難供養塔



大乘經一石一字書写供養塔  
維時寛政三辛亥龍集十一月摩訶吉祥日  
天下泰平當村為安全  
國土安穩  
台座 願主 正道覺明庵主  
施主 若干人  
世話人  
当村武藤孫右衛門 仲山儀左衛門  
武藤多野右衛門 仲山彌右衛門  
仲山藤左衛門 武藤利八郎  
上三吹 仲山彌右衛門  
辺見筋長坂上条村小尾六郎右衛門



▶ 交通案内  
◎ JR中央本線「ひのはる」駅より山梨交通バスにて武川村役場前下車 徒歩20分  
◎ 国道20号武川村役場交差点より1km 車で5分  
▶ 所在地  
山梨県北巨摩郡武川村下三吹地先  
▶問い合わせ先  
建設省富士川砂防工事事務所 調査課 電話0552-52-7108



15

長崎県

◎建立者／江東寺

◎建立年／寛政五年

## 溺死無縁塔

◆島原大変◆

寛政四年（一七九二年）、長崎県の雲仙岳が噴火し、発生した強い地震に伴い、眉山の東部半面が頂上から大崩壊を起こし、有明海に崩れ落ちた。この時の死者一万八十四人、対岸の熊本側でも崩壊の衝撃で引き起こされた大津波によって四千六百五十三人が溺死、天草でも三百四十四人が犠牲になつた。俗に「島原大変、肥後迷惑」といわれる大災害である。

島原藩では、翌年の一月二十八日、死者が最も多く流れ着いた場所に、流死者を供養する塔を建てて、その靈を慰めた。また、各寺院でも厚く供養が施されている。供養塔は島原半島に二十一基、熊本県内には十七基が建立されている。

表面：溺死無縁塔  
右側面：寛政四年五月朔月

## 島原大変

## 溺死無縁塔

寛政四年（一七九二）雲仙岳が噴火し、この時の強い地震により眉山の東部半面が頂上から大崩壊をおこし、有明海に崩れ落ち一万余四十四人の流死者を出した。対岸の熊本側でも四千六百五十二人が溺死し、天草でも三百四十四人が犠牲になった。俗に「島原大変肥後迷惑」といわれている。

島原藩庁では翌年二月二十八日死者が最も多く漂着した場所に溺死供養塔を建て、永くその靈を慰めているが、各寺院でも厚く供養を施した。島原半島に二十二基、熊本県に十七基が建てられている。



## ▶交通案内

- 島原鉄道 島鉄本社前駅下車 徒歩約12分 島鉄バス口之津
- 加津佐行きバス乗車 桃山バス停下車 徒歩約10分
- 国道251号線島鉄バスターミナルより700m 車で約1分
- ▶所在地 長崎県島原市中掘町江東寺
- ▶問い合わせ先 長崎県砂防課 電話0958-20-4788  
建設省雲仙復興工事事務所 調査課 電話0957-64-4171

# 流死供養塔

寛政四年（一七九二年）の雲仙岳の噴火により、島原地方にきわめて大きな地震が発生した。これによつて眉山東部半面が頂上から大崩壊をおこし、有明海に流れ込んで多くの流死者を出した。また津波も発生し、島原城下随一の繁華街であつた島原内港の船着き場周辺はその直撃を受けた。大津波は対岸の熊本側をも襲い、多くの尊い人命が犠牲となつた。俗に「島原大変肥後迷惑」といわれる大災害であった。

島原藩府では翌年の二月二十八日、最も多く死者が漂着した場所に流死供養塔を建て、その靈を永く慰めてきた。この「宝篋印塔型流死供養塔」は一乘院七世住職弘輝によつて、寛政五年四月に建てられたものである。



## 流死供養塔

## 宝篋印塔型流死供養塔

往時、この辺りは島原内港の船着き場で、城下隨一の繁華街であつた。

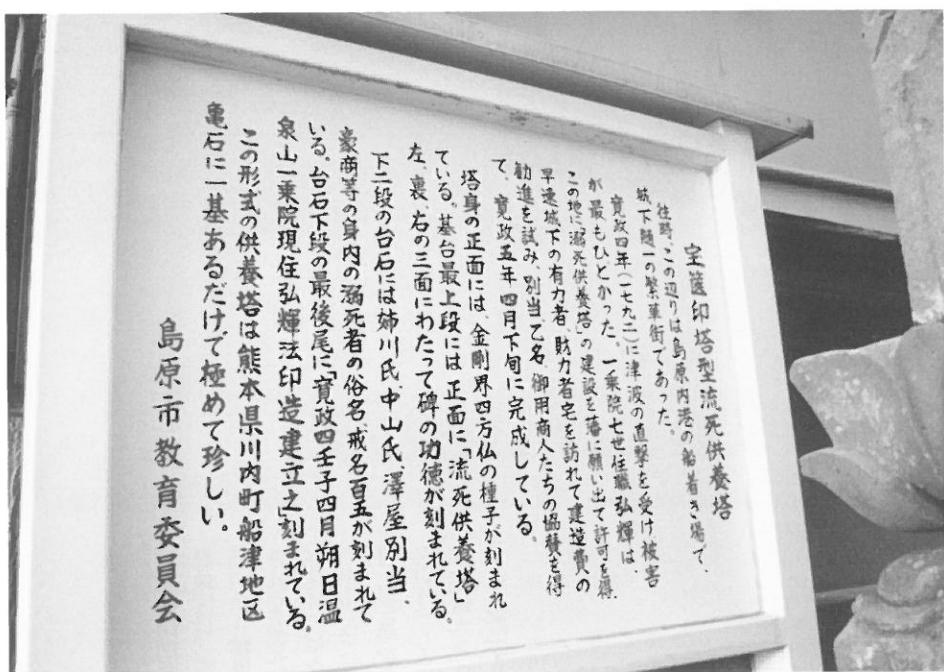
寛政四年（一七九二）に津波の直撃を受け、被害が最もひどかつた。一

乗院七世住職弘輝は、この地に「溺死供養塔」の建設を謹に願い出て許可を得、早速城下の有力者、財力者宅を訪れて建造費の勧進を試み、別当、乙名、御用商人たちの協賛を得て、寛政五年四月下旬に完成している。

塔身の正面には、金剛界四方仏の種子が刻まれている。基台最上段には正面に「流死供養塔」左、裏、右の三面にわたって碑の功德が刻まれている。

下二段の台石には姉川氏、中山氏、澤屋別当、豪商等の身内の溺死者の俗名、戒名百五が刻まれている。台石下段の最後尾に「寛政四年四月朔日温泉山一乗院現住弘輝法印造建立之」刻まれている。

島原市教育委員会



## ▶ 交通案内

○島原鉄道 島鉄本社前駅下車 徒歩約12分

○加津佐行きバス乗車 島鉄バス口之津 島鉄バスターミナル徒歩5分

## ▶ 所在地

長崎県島原市中掘町江東寺

## ▶ 問い合わせ先

長崎県砂防課 電話0958-20-4788

建設省雲仙復興工事事務所 調査課 電話0957-64-4171

## 役行者の石碑

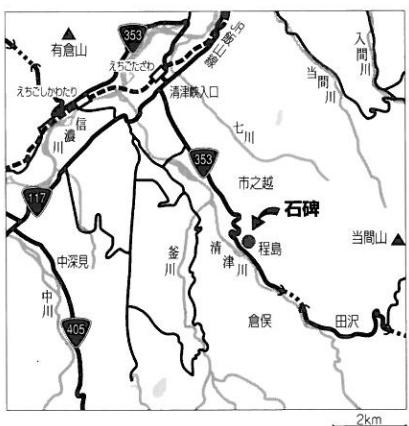
新潟県下南魚沼郡中里村を流れる清津川の上流部に位置する程島地区は、地理的条件から洪水に襲われやすい。しかし、堤防を築いたり補堤をする経済力がなく、治水事業などはまったくなされなかつた。洪水によって不作になれば、木の実や草の根を食べなければならないほど貧しい地域であつたと伝えられている。今から二百年ほど前の天明年間の頃、旅の僧が水害に苦しむ村人を見かね、河原に穴を掘って入り、読経しながら息絶えたという。しかし、洪水は相変わらず襲いかかり、困りはてた人々は寛政六年九月、役行者を「水害除けの神」として祀り、現在でも地元の守り神として大切にされている。



碑文

表  
面  
役行者

左側面  
寛政六寅九月吉鳥  
右側面  
當郷願主中格立之



▶ 交通案内

◎ JR飯山線越後田沢駅下車 越後交通バス越後湯沢または清津峡行き  
程島停留所下車 徒歩10分

◎ 国道353号沿い程島集落 国道より車で5分

▶ 所在地

新潟県南魚沼郡中里村程島

▶ 水系名及び渓流名

信濃川水系清津川

▶問い合わせ先

建設省湯沢砂防工事事務所 調査課 電話0257-84-2263



## 弔溺碑

島根県を流れる斐伊川の上流木次町にある慰靈碑である。

文政九年（一八二六年）五月の初め、連日雨が降らないので人々は心配した。すると二十一日朝、突然雲が起り、豪雨となつた。人々は喜んで「雨よ降れ、お上の田からわが田へも」と歌つた。ところがこの雨は終日降りやまず、夕方になつてますますひどくなつた。軒下の流れは渦を巻き、たまり水は街にあふれだした。この時、日登村の小池山が崩壊して桜川の下流をふさいだため、大災害になつた。

被害を受けた家屋は千十三戸、死者は百二十六名を数えた。翌年、招魂をなそうと文をつくつて石に刻み、寺院に建ててこれを後世に残すこととした。碑は三百字からなる漢文で、弔溺碑という。



碑文

弔瀟碑(ちょうできひ) 高さ3・3m幅91cm厚4・5cm  
南無阿弥陀佛(表面名号) 施主 河口太左衛門

石田万五郎  
石金忠左衛門

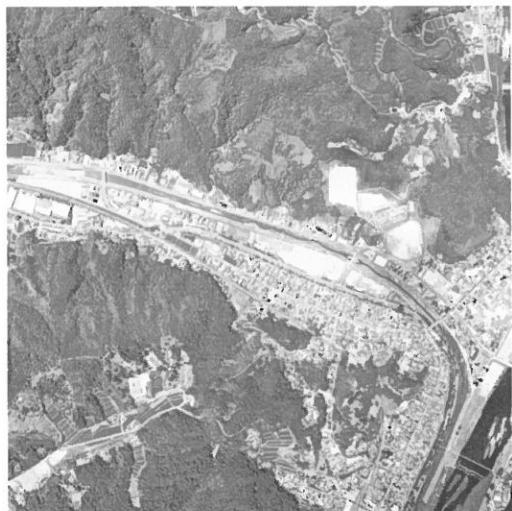
名号一字の深さに水1.8リットルが入るという。

碑文は漢字約千二百字からなる漢文である。

(なお、資料にも全文を掲載したものがなく、判読には相当の時間が要するため全文の転記は困難。以下に資料現存分を記す。)

(読みの方向→)  
 篓河桜河。沿々蹴<sup>トシテ</sup>天。  
 決<sup>シ</sup>内<sup>ノ</sup>外<sup>ノ</sup>堤<sup>一</sup>。浸<sup>ノ</sup>南<sup>ノ</sup>北<sup>ヲ</sup>塵<sup>一</sup>。  
 漂<sup>シ</sup>没<sup>ク</sup>避<sup>レ</sup>難<sup>エンヤ</sup>。溺<sup>ムニ</sup>死<sup>燔<sup>ムニ</sup></sup>堪<sup>レ</sup>。  
 嘘<sup>ア</sup>邦<sup>ノ</sup>家<sup>仁<sup>タリ</sup></sup>黎<sup>キラ</sup>庶<sup>全<sup>キラ</sup></sup>得<sup>レ</sup>。  
 爰<sup>ニ</sup>弔<sup>シ</sup>群<sup>ヲ</sup>靈<sup>テ</sup>。建<sup>ジテ</sup>碑<sup>オランム</sup>命<sup>鑄<sup>レ</sup></sup>。

(儒者) 横山宗甫直卿謹撰  
(書家) 岡田令春蘭卿六十九齡謹書



▶交通案内

◎JR木次線木次駅下車徒歩約10分 国道54号里熊大橋手前折 車で約5分

▶所在地

島根県大原郡木次町八日市360 円覚寺内

▶水系名及び溪流名

斐伊川水系

▶問い合わせ先

島根県砂防課 電話0852-22-5225



# 供養塔（大鳶地震）

安政五年（一八五八年）二月二十六日、跡津川断層の活動によつてマグニチュード約七・一の地震が発生し、立山カルデラの一部鳶山が約四億立方メートルといわれている大崩壊をおこした。土砂は谷をせき止めいくつかの天然ダムをつくり、水嵩の増大による決壊で同年に二回もの大規模な土石流を発生させ、下流部では大洪水が常願寺川扇状地の集落を襲つて家屋を破壊するとともに多くの人命を奪つた。

この地震により立山温泉にいた三千名余りの人々が崩壊した土砂の下敷きとなり、さらに下流においても約九千名もの死傷者を出した。

今では温泉の石垣跡だけが当時の隆盛を偲ばせるこの地に、昭和五十九年八月十日、被災者を供養する塔が建てられた。



## 碑文

供養塔

大鳶地震

安政五年二月二十五日

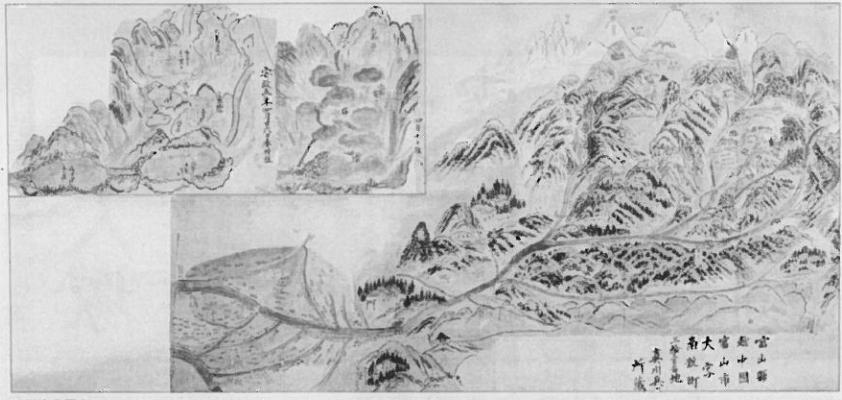
昭和五十九年八月十日建立 遺族会

念法寺前住職 覚音法師 富士山上金明水二子敬書 七十六才  
大鳶山崩壊遭難者名及生家

(崩壊の下敷きになつた方三十二名の名と年と生家)  
奥山遭難者名及生家  
(崩壊以外で亡くなつた方七名の名と年と生家)



●大鳶山抹絵図



●災害の歴史



### ▶所在地

富山県中新川郡立山町芦嶽寺字ブナ坂外

### ▶水系名及び渓流名

常願寺川水系湯川

### ▶問い合わせ先

建設省立山砂防工事事務所 調査課 電話0764-82-1111



# 行人塚



その昔、新潟県糸魚川町字寺島は姫川の大洪水に悩まされていた。それを見た一人の行者は、毎年洪水で難儀するのを気の毒に思い、自分の身を捨てて村を救おうと、村の者を集めて自分を生き埋めにするよう命じた。村の者は言われるままに大きな穴を掘り、行者をその中に入れた。やがて穴には石の蓋がかぶせられたが、中からは調子の乱れぬ鉦の音がわずかに聞こえてきたという。

それからというもの、姫川がどんなに荒れても行人塚より内には水が来なくなつた。生き埋めにされた行者のお経を読む声は、三年もの間土の中から聞こえてきたとか。現在は「寺島の行人塚」と呼ばれ、高く盛られた土の上に一本の松が茂つている。



姫川河口石碑付近

